

審 議 経 過〔要点記録〕

（1）人口の現状について（資料1）

本市人口ビジョンの最新データを抜粋して説明を行った。

（2）総合戦略の検証等について（資料2, 3, 4）

資料を用い、成果指標の達成度やアクションプランの説明を行った。

〔戸田会長〕

資料3の「地区交通の再編による月あたりのコミュニティバスの利用者数」における「1,020人」は、累計目標なのか、令和元年度の単年度目標か。

〔事務局〕

累計です。

（3）第2期総合戦略の策定について（資料5）

今年度行う第2期総合戦略の策定について、体制及びスケジュールについて事務局案の説明を行った。

〔戸田会長〕

第2期策定のためには一定の評価が必要であるが、現在の成果指標の振り返りは今年度行うのか、それとも目標年度終了後に行うのか。

〔事務局〕

国の指針でも、第1期から第2期に切れ目なく、ということであるので、第2期の策定のためには目標年度に到達していないが一定の検証は必要と考える。手法については工夫が必要なので事務局でも検討を行う。

最終結果は確認すべきであるため、来年度また総括を行う。

[戸田会長]

第2期については必ず第1期の検証をした上で策定することが必要かと考える。

[谷口委員]

① 最終的な目標は、人口の社会減をいかに食い止めるか、ということだと思うが、成果指標とその最終的な目標の関連性を検証することが必要と考える。

その検証を行った上で、関連性が高いものについては重点指標（重点項目）とするなど、区別が必要であり、そうすれば検証もその部分に力を入れて行うことができる。

② 今後部会を行う上で、転出転入に関連性の高いアクションについて協議していただきたい。

③ 若者雇用が増加しているが転入者数が増加していない。賃金上がるなどの効果はあると思うが、伊万里市の事業所に就職するが転入には至らないケースがあるようだ。

そうしたことから、住宅施策などあるといいと思ったがアクションプランの中には無かったので、そうしたことも入れてみてはどうか。

④ 転出転入のアンケートをとっているかと思うが、そのデータはあるか。

[事務局]

① 今までも重点目標などありはしたが、直接転出転入につながるようなもの、という視点での区別も検討する。

③ 住宅施策については、民間事業者も現在かなり力を入れている。第2期の検討の中で有効なものが出てくればもちろん導入したいが、現在の話をすると、移住定住施策ということで、新築に対する奨励金などを行っているところ。

④ アンケートを市民課において取ってはいるが、なかなかデータの採取ができるようなものとなっていないのが実情。転出転入の理由としては「しごと」「Uターン」が主流であるような感覚はあるが、それを裏付けるデータはない。

〔中山副会長〕

子どものために佐賀市や唐津市に移住する人もいることを考えると、中学・高校などの【学校】を大切にすることが必要と思う。「地元の高校までいけば郷土愛が育つ」と聞くため、産業の発達ももちろん大切だが、教育に力を入れて欲しい。

〔事務局〕

市長も常々教育・学校が大事と言っており、力を入れて将来本市に帰ってきてくれる子どもを育てていこうと動いている。高校は県立私立あるが、国が特色ある学校づくりに力を入れ始め、それに伴い県も予算などつけている。今後も大事にしたい。

〔戸田会長〕

転入転出の要因などについては第2期の策定において重要だと思うし、指標の整理も必要。第1期を否定しないとあるが、必ずしも第1期を全て行うということとはならないと考える。「総合戦略」として機能するようなものにしなければならない。

〔古賀委員〕

誘致企業への雇用が増えることは良いと思うが、地場企業から誘致企業へ雇用が流れるという話も聞く。そのようなデータはないか。

〔企業誘致・商工振興課〕

特にデータはない。

誘致企業については、市外からも多く採用され、特に若者の雇用が増えている。IT企業の誘致については商業高校などから市外に就職していた分野であるため、製造業とのマッチングは無いと考えている。

本件は確かに悩ましい問題である。市内の中小企業向けの施策として、市内の中小企業

への就職と転入を行った場合に1回あたり20万円の奨励金を交付しているが、大手の企業を除外しているためひとつの施策と考える。

また、8月11日には就活支援（雇用支援）の観点から、市内企業に参加していただき就職説明会を開催している。年次的に学生の参加対象者を拡大しながら行っているためこのような機会を活用していただきたい。

〔石本委員〕

伊万里市には、市民がちょっと行って休める公園のような「安らぎの場」がないように感じる。武雄市の図書館には食事をするところがあり、一日過ごせる。若い人が市外に遊びに行くのは、楽しいことがあるから。高齢者は移動手段（車）も、少し歩いたところに仲間と寄りあえるような公園もないため家の中にいる。

伊万里市民の生活に活気・うるおい・安らぎがあれば、他市の人も伊万里は楽しそうだと思う。地元にいる人が地元で楽しまなければ人口は減る。ベンチや花を置いたり、文化行事や公園の整備を行うなど、子どもも高齢者も安心して遊び安らげる場を整備していただきたい。

〔事務局〕

他市にあるような集客施設が本市に無いのは確かであるが、「安らぎの場」は、市民図書館や、市街地で「番館」の指定をされているところなど、色々ある。

市が行うと大がかりになり、求められるスピードが出ないため、頑張っている市民の方や、各地域におけるまちづくり団体などの活動等の中で、スピード感を持ってニーズに合った取組をしていただければと考えており、そういった支援も行っている。そのようなご意見は今後とも是非いただきたい。

新規に市で建物を作ったり大きな公園を整備したりとなるとなかなか厳しい状況にあるため、今あるものを生かす方向で施策を行っている。

〔村上委員〕

百貨店を経営していると、高齢の方のUターンが多いように感じるが、伊万里市の施策にはその年代の転入に対するフォローは無い。ただその年代の転入を注視していなかっただけで今後施策に反映させるのか、それとも若い世代のみをターゲットとするのか。

〔事務局〕

退職者などのUターンを拒んでいるわけではないが、全般的に見た時に、施策として重点的にやるとすると、若い方、特に子育て世代に来てもらった方が良いと考えているのが現状。そのため住宅新築の奨励金の条件などに年齢を入れている。

〔戸田会長〕

人が移動する年齢はある。その移動が多い年齢層に対して施策を行うというのが人口減少対策に繋がると思う。

〔谷口委員〕

第2期策定にあたり部会の開催は何回を考えているか。第1期の取組と転出転入の関連性の検証を行い、関連性の高い事業を考えるという作業はかなり多いと思う。部会の回数やスケジュールについては戸田会長と相談して検討していただきたい。

〔戸田会長〕

国の方針や伊万里市の状況など色々な要因があるため、事務局と相談して決めたい。

〔谷口委員〕

石本委員から憩いの場所が無いという話があったが、自分は週末に武雄や佐賀の大型商業施設に行くし、そこで伊万里市の知り合いによく会ったりもする。

今まで、様々な要因から大型商業施設の誘致についてはタブーであったと思うが、転出転入の話考えた時に、ファミリー世代にとって魅力的なまちを作る上で、また雇用創出の面からも、商業施設があれば解決することは多くあるのではないか。

地方創生の目的に大型商業施設の誘致が沿っているのであれば、頭に入れておかなければいけないのではないかと思うし、そういう気持ちで第2期の策定にあたらなければならないし、各部会で検討していただければと思う。